

## 平成25年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度は、(1)知性の向上、(2)品性の向上、(3)信頼される学校づくりの観点から重点目標を設定し、学校経営に係る様々な課題に取り組んできた。

(1)知性の向上に関しては、課題提出を含め、計画的・自主的な学習習慣の定着に努めており、家庭学習時間にやや増加傾向が見られた。また、進路指導については、三年間を見通した指導が行えるよう面接指導を重視するとともに、進路意識や学習意欲を高める取り組みを推進してきた。

なお、小テストの実施や検定取得への取り組みなど、各学科・教科において前向きな学習活動が展開されている。

(2)品性の向上に関しては、年間14回実施する挨拶運動「氷高さわやかディ」、年2回の「さわやか運動」などを通して、挨拶に関する生徒の意識向上を図ることができた。また、昨年に引き続き重点目標とした歯科治療率は、衛生健康への意識を高める上で一定の成果が見られた。

(3)信頼される学校づくりに関しては、学習活動や部活動、学校行事など教育活動全般を通して、地域や家庭との連携を進めているところであり、重点目標に設定した地域の交流活動等への参加者数は大幅な増加が見られた。また、保護者の教育活動に対する満足度については、参加促進や情報発信などに努めてきた。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

平成26年度は、学力や進路希望における一層の多様化がみられる生徒の実態から、「わかる授業」を念頭に置いた学習指導や、個に応じた進路指導の充実を図ることが大切である。具体的には、普通科における一層の学力伸長や専門学科における基礎学力の定着、面接指導を通じた進路意識の明確化が課題となる。

また、充実した高校生活を送るために、「氷高さわやかディ」を通じた挨拶の励行やボランティア活動をはじめ、各学科や部活動、HIMI学などを通して展開する主体的・探究的な活動は、より多くの生徒が体験できる仕組みづくりや充実した活動内容を工夫する必要がある。これらは家庭や地域などとの連携を踏まえ、信頼され魅力ある学校づくりにつなげていく必要がある。

(様式5)

8 学校アクションプラン

平成25年度 氷見高校アクションプラン - 1 -																																				
重点項目	学習活動（自己学習力の向上）																																			
重点課題	自主的学習態度の確立と教科指導力の向上																																			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日の家庭学習時間が2時間以上の生徒(H24年度普通科、平日)</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>2学期中間考査後</td> <td>1年</td> <td>9%</td> <td>2年</td> <td>10%</td> <td>3年</td> <td>49%</td> <td>全学年</td> <td>23%</td> </tr> <tr> <td>2学期期末考査前</td> <td></td> <td>22%</td> <td></td> <td>32%</td> <td></td> <td>52%</td> <td></td> <td>35%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>週末課題や小テストによる計画的自主的な家庭学習習慣の定着、互研授業の実施等による授業の質の向上、文理探究コースの探究活動の充実を図り、学力向上に努めている。</li> <li>専門学科では、専門教科と普通教科の連携を図り、授業を基本とした課題の提出、小テストによる普通教科の計画的自主的な家庭学習習慣の定着に努めている。</li> </ul>					2学期中間考査後	1年	9%	2年	10%	3年	49%	全学年	23%	2学期期末考査前		22%		32%		52%		35%													
2学期中間考査後	1年	9%	2年	10%	3年	49%	全学年	23%																												
2学期期末考査前		22%		32%		52%		35%																												
達成目標	①平日の家庭学習時間2時間以上		②教員一人当たり互研授業の年間実施回数																																	
	60%以上		2回以上																																	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導部、特活部、学年等との連携を密にし、進路統一HRなどを取り入れながら、早期に進路目標を立て、その実現に向けて学習に取り組ませる。</li> <li>学習計画表をもとに、きめ細かに面接指導を行い、家庭学習を支援する。</li> <li>計画的に週末課題や小テストを実施し家庭学習習慣の定着を図り、課題提出率の向上に努めさせる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期に1回、2学期に1回、互研授業を実施し、授業の質向上に努める。</li> <li>学習シラバスの作成や教科部会の開催を通して、指導法及び指導内容の検討を行う。</li> <li>正味50分の授業時間確保に向けて、引き続き生徒・教員共に努力する。</li> </ul>																																
達成度	① 36%（2学期中間考査後） 54%（2学期期末考査前）			② 実施率 100%																																
具体的な取組状況	11月調査(中間考査後) (10/28～11/3) <table border="1"> <tr> <td></td> <td>1年</td> <td>2年</td> <td>3年</td> <td>全体</td> </tr> <tr> <td>平日</td> <td>16%</td> <td>20%</td> <td>72%</td> <td>36%</td> </tr> <tr> <td>休日</td> <td>33%</td> <td>45%</td> <td>79%</td> <td>52%</td> </tr> </table> 11月調査(期末考査前) (11/25～12/1) <table border="1"> <tr> <td></td> <td>1年</td> <td>2年</td> <td>3年</td> <td>全体</td> </tr> <tr> <td>平日</td> <td>40%</td> <td>52%</td> <td>69%</td> <td>54%</td> </tr> <tr> <td>休日</td> <td>69%</td> <td>74%</td> <td>82%</td> <td>75%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に平日の学習時間は昨年に比べて増加している。1・2年生で、長時間学習する生徒数が増加しているが、依然として2時間未満の生徒も多い。</li> </ul>				1年	2年	3年	全体	平日	16%	20%	72%	36%	休日	33%	45%	79%	52%		1年	2年	3年	全体	平日	40%	52%	69%	54%	休日	69%	74%	82%	75%	<ul style="list-style-type: none"> <li>互研授業実施期間 1学期 5月27日(月)～6月12日(水) 2学期 11月18日(月)～22日(金)</li> <li>1、2学期とも、期間中の全授業を公開した。特に2学期は授業公開週間と位置づけ保護者、関係者にも公開した。</li> <li>参観レポートの提出率は、1学期では82%、2学期では88%であり、教員相互の研修機会として有意義に活用されている。</li> </ul>		
	1年	2年	3年	全体																																
平日	16%	20%	72%	36%																																
休日	33%	45%	79%	52%																																
	1年	2年	3年	全体																																
平日	40%	52%	69%	54%																																
休日	69%	74%	82%	75%																																
評 価	① B			② B																																
次年度へ向けての課題	次年度以降も継続して取り組むとともに、学習時間の増加を目指して学年との連携をとりながら工夫していきたい。			保護者等の参観者を増やす広報について工夫したい。																																

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

平成25年度 氷見高校アクションプラン - 2 -

重点項目	学習活動（教科実践力の育成）	
重点課題	日常的な学習意欲の高揚と実践的学習活動の定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科や英語科、数学科など普通教科では、スピードテストや小テストの実施により、反復学習の習慣を定着させ学習意欲を高めていく必要がある。</li> <li>・家庭科や農業科など専門教科では、専門学習の理解と定着を図る一環として、検定取得を通して、計画的な学習習慣と学習意欲の向上を目指している。</li> </ul>	
達成目標	①小テストの実施回数(国語科・英語科)	②スピードテストの実施回数(数学科)
	年間20回以上	年間50回以上
	③各種検定1級合格者数(家庭科)	④1人当たり検定合格種目数(農業科)
	延べ30人以上	4種目(1年)、6種目(2年)、11種目(3年)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学期毎に実施計画を提示し目標を持って取り組ませる。</li> <li>②週2回のペースで同じ単元を一定期間繰り返し、反復学習の習慣を身に付けさせる。</li> <li>③目標達成のための課題を設定し、学習計画を各自で作成させるなど、学習に対する意識を高めさせる。</li> <li>④年間を通じた計画的な指導により、自主的な学習態度を促す指導を行う。</li> </ul>	
達成度	① 達成率 100%	② 達成率 100%
	③ 家庭科・全商各種検定1級合格者32名(保育技術検定1級合格者29名)	④ 1・2年は達成、3年は未達成
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>①漢字の小テストや古文単語テストなどを24回(1年)、26回(2年)、21回(3年普)、35回(3年専)実施した。また英語の小テストは21回(1年)、22回(2年)、22回(3年)実施した。</li> <li>②各学年それぞれ60回(1年)、58回(2年)、54回(3年)実施し、スピードテストへの取り組みに真剣味が増した。</li> <li>③課題を提示し、確認テストを行い、確実に検定内容の定着を図った。</li> <li>④学年ごとに検定・資格試験の年間日程を掌握し、事前学習期間を十分に確保し自主的学習を促した。また課題提出や学期始めの実力テストを重視した。</li> </ul>	
評 価	① A	② A
	③ A	④ C
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>①国語力の基礎として漢字や古語、英語力の基礎として英単語を覚えることの重要性を自覚させ、繰り返し学習を徹底したい。</li> <li>②毎回のスピードテストの復習を習慣化させ、基礎力の向上を図りたい。</li> <li>③資格・検定取得後の生徒の達成感が高い。次年度は、検定合格レベルの向上と1級合格者のさらなる増加を目指す。</li> <li>④資格に関しては関連する科目内で計画的に指導する。</li> </ul>	

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

平成25年度 氷見高校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（進路支援力の向上）																																				
重点課題	進路意識の高揚と進路目標の早期設定																																				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の能力・適性をつかみきれていないため、進路目標の設定が遅れがちになる傾向がある。（4月進路希望調査の進路未定者：1年32人、2年2人）</li> <li>第3学年の進路希望状況（人） ※4月調査、その他には公務員志望を含む <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>普通科</td> <td>大学 114</td> <td>短大 10</td> <td>専門 20</td> <td>就職 10</td> <td>他 2</td> <td>合計 156</td> </tr> <tr> <td>農業科学科</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>10</td> <td>1</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>海洋科学科</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>ビジネス科</td> <td>8</td> <td>4</td> <td>9</td> <td>17</td> <td>2</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>生活福祉科</td> <td>0</td> <td>7</td> <td>24</td> <td>9</td> <td>0</td> <td>40</td> </tr> </table> </li> <li>進路実績が上がっているものの、引き続き学習習慣を定着させ、学力養成に努める必要がある。</li> <li>進路意識及び学習意欲を高めるための活動や面接の充実が必要である。</li> </ul>		普通科	大学 114	短大 10	専門 20	就職 10	他 2	合計 156	農業科学科	3	1	5	10	1	19	海洋科学科	5	4	2	8	0	19	ビジネス科	8	4	9	17	2	40	生活福祉科	0	7	24	9	0	40
普通科	大学 114	短大 10	専門 20	就職 10	他 2	合計 156																															
農業科学科	3	1	5	10	1	19																															
海洋科学科	5	4	2	8	0	19																															
ビジネス科	8	4	9	17	2	40																															
生活福祉科	0	7	24	9	0	40																															
達成目標	①進路学習の実施回数(各学年・学期) 2回以上(普) 3回以上(専)	②生徒一人当たり面接回数(年間) 4回以上(1・2年) 5回以上(3年)																																			
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導部と各学年が連携を図り、3年間を見通した進路指導を行う。</li> <li>総合的な学習の時間やホームルーム活動等においてキャリア教育を実践する。</li> <li>各学年の年間指導計画に基づき、系統的な学習機会を設けて進路を研究し、自己の適性の理解及び将来設計の具体化を図らせる。</li> </ul>																																				
達成度	① 全学年で達成	② ほぼ達成																																			
具体的な取組状況	<p>学期あたりの進路について考える機会</p> <p>1 学年 進路行事 4 回＋ホームルーム指導 5 回</p> <p>2 学年 " 6 回＋ " 5 回</p> <p>3 学年 " 2 回＋ " 6 回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2 学年の進路研修旅行の事前学習は、別に多数実施している。</li> <li>普通科は、主にホームルームの時間で進路学習を実施しているが、専門学科は、HIMI学(1年)、キャリアガイダンス(2年)、キャリアデザイン(3年)の時間でさらに指導の充実を図っている。</li> <li>卒業生と語る会は、1 学年も対象とした。</li> <li>大学、企業訪問を 2 年生で新規実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 人あたりの面接回数(1 月末) 平均 4.6 回(1 年)</li> <li>平均 4.0 回(2 年)</li> <li>平均 4.9 回(3 年)</li> <li>67%のクラスで達成された。</li> <li>家庭学習計画表を提出させ、家庭学習の確認と助言を行っている。</li> <li>※進路未定の生徒 (9月2日調査) 17 名(1 年)</li> <li>5 名(2 年)</li> <li>1 名(3 年)</li> </ul>																																			
評 価	B	B																																			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>HIMI学等の時間を活用した普通科の年間指導計画を立てることで、いっそうの充実を図る。</li> <li>副担任の支援を生かしながら、面接の代行や家庭学習計画表のチェックなど、担任の負担軽減につなげたい。</li> </ul>																																				

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

平成25年度 氷見高校アクションプラン - 4 -

重点項目	学校生活（健全で充実した高校生活）	
重点課題	品性を高めあう態度の育成と衛生管理への意識付け	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制服の着こなしは徐々に良い方向に向かっている。一方、挨拶に関しては、生徒意識調査において、8割の生徒が「挨拶をしている」と回答しているものの、年14回実施している「氷高さわやかディ」はマンネリ化の傾向にある。</li> <li>・昨年度の歯科治療率は約37.5%であった。虫歯の早期治療を促し、歯の衛生管理を意識付ける必要がある。</li> </ul>	
達成目標	①挨拶に関する生徒意識率の向上 90%以上	②歯科治療率 40%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「氷高さわやかディ」(年間14回)や生徒校風委員会の早朝挨拶運動に、部活動ごとに参加を要請する。</li> <li>・服装指導なども含めて、教職員の共通理解のもとで、年間を通して粘り強い指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者会の際に、歯科治療カードを配布し、長期休業中に治療するよう促す。</li> <li>・治療を要する永久歯があるにもかかわらず、長期休業中に治療しない生徒には、面談を通して治療を促す。</li> </ul>
達 成 度	① 90% (生徒意識調査)	② 32.8%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回の「さわやか運動」では、市内小中学校や市内少年補導員など地元の協力を得ながら実施した。小学校の校舎移転に伴い、小・中・高合同の挨拶運動はできなかったが、通学路の一部が『挨拶ゾーン』となり、さわやかな活動となった。</li> <li>・「正しい制服の着こなし」が徐々に定着してきているものの、ネクタイ・リボンの着用には、声かけを要する。</li> </ul> <p>【生徒意識調査】</p> <p>挨拶を意識している 90%</p> <p>服装頭髪をきちんとしている 91%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期健康診断では歯科衛生士を2名増員し、治療カードをその場で生徒に渡して早期受診を促した。</li> <li>・保護者会の際に、担任から直接保護者に治療カードを渡して受診を勧奨した。</li> <li>・定期的に教室に掲示している「保健だより」の特集として歯について取り上げ、生徒に受診を促した。</li> </ul>
評 価	① B	② C
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動の週間以外は、教員側からのさらなる声かけが必要である。事前活動において挨拶の意義を生徒が理解し活動できるよう工夫することが必要であり、「氷高さわやかディ」の取り組みがマンネリ化しないよう実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科治療率 40%以上</li> <li>・生活習慣を見直させることで、主体的に健康管理ができる力の向上を図る。</li> </ul>

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

平成25年度 氷見高校アクションプラン - 5 -

重点項目	その他（地域・家庭との連携強化）																			
重点課題	地域や家庭との結びつきを大切にした取り組みの推進																			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と連携した活動への参加を積極的に進めており、地域交流活動への参加者数は、H22年度249名、H23年度309名、H24年度467名と増加傾向にある。</li> <li>・P T A活動は、総会・委員会・学年の各研修や行事があるが、保護者の参加割合は45%とまだまだ低い状況である。</li> </ul>																			
達成目標	①地域の交流活動等への参加者(年間) 840人以上	②P T A活動の参加率 60%																		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各クラスや生徒玄関掲示板に活動案内や活動状況、参加者の感想等を掲示し、生徒の参加意識を高める。</li> <li>・生徒会ボランティア推進委員会や専門学科各クラブ活動からも、積極的な参加を働きかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P T Aだよりや「氷高ほっとメール」の充実を図り、保護者への情報発信に努める。</li> <li>・他の分掌との連携を図り、多くの保護者にP T A活動への参加を促し、学校の教育活動を理解してもらうよう工夫する。</li> </ul>																		
達成度	① 1, 249人	② 40%																		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会執行部、生徒会ボランティア推進委員会や農業科学科・海洋科学科・生活福祉科、部活動を中心に活動した。</li> <li>・地域交流活動への延べ参加人数 (1月31日現在)</li> </ul> <table style="margin-left: 40px;"> <tr><td>生徒会</td><td>407</td></tr> <tr><td>農業クラブ</td><td>96</td></tr> <tr><td>水産クラブ</td><td>146</td></tr> <tr><td>ビジネス科</td><td>16</td></tr> <tr><td>生活福祉科</td><td>32</td></tr> <tr><td>家庭クラブ</td><td>86</td></tr> <tr><td>J R C</td><td>202</td></tr> <tr><td>吹奏楽部</td><td>48</td></tr> <tr><td>応募有志</td><td>216</td></tr> </table>	生徒会	407	農業クラブ	96	水産クラブ	146	ビジネス科	16	生活福祉科	32	家庭クラブ	86	J R C	202	吹奏楽部	48	応募有志	216	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ゆづるは」は2回、ホットメールは25回、氷高新聞は2回、また、各学年だよりも学期毎に発行し、学校の情報を伝えている。</li> <li>・PTA活動の参加も各学年PTA研修会などは60%を超えている。また体育大会などは少しずつだが参加者が増えてきている。</li> <li>・PTAの各委員会の行事は、保護者が参加しやすいように内容・時間帯を工夫し、参加協力してくださる方が増えている。</li> </ul>
生徒会	407																			
農業クラブ	96																			
水産クラブ	146																			
ビジネス科	16																			
生活福祉科	32																			
家庭クラブ	86																			
J R C	202																			
吹奏楽部	48																			
応募有志	216																			
評 価	① A	② C																		
次年度へ向けての課題	・活動や参加人数等のデータを入力してもらい、記録を集計・保存するシステムを構築する。	・保護者に学校の取り組みを理解してもらうように工夫する。																		

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった